見えない球

風にそよぐ長い長い緑の草原をゆっくりと紐解けば
私たちの物語が見えてくる
鳥が零れるように鳴くこの時空にはるか連らなる来し方に
あざやかに切り取られる一幕一幕のはなし

たとえば、海に沈んだ長い髪の姫のはなし
兄に矢を向けられた若き弟のはなし
闇夜にさまよい出た王のはなし
燃え上がる城のはなし

それは緑のカンバスに描いてきた人間の物語

それから私たちは何に夢中になったのだろう
近代という200年の光の草原に
営々と創りあげたもの、かたち、未来へのチケット

世界は時空を駆けるきれいな絵巻きをもつ球のよう
そして
見えない時空を翔けるもう一つの世界を内包しながら

零れるように降る
コロラトゥーラ・ソプラノの囀りよりもっと高くもっと深く
永遠のしじまの裂け目に
それはやさしくたおやかに横たわっているに違いない
私たちの物語を抱くように

今井 祝雄 いまい のりお

造形作家。1946年、大阪市に生まれる。大阪市立工芸高校在学中から吉原治良に師事、元・具体美術協会会員。
第10回シェル美術賞一等賞受賞、以降内外の美術展に出品。
新大阪駅前、関西学研都市の屋外彫刻や住吉大社の万葉歌碑などを制作、大阪市都市環境アメニティ表彰。
著書に「都市のアートスケープ」（ブレーンセンター）
「アーバンアート――芸術からの街づくり」（学芸出版社）等。

作品：「見えない球」
素材：琵琶湖湖底のヘドロ＋ポリエステル＋ガラス繊維＋ブロンズ

撮影：細川 和昭